

テーマ

## 国家の変容とは

適用  
分野

国際関係論

研究  
名称

国際社会における統合運動と分離運動の  
相互作用に関する研究

氏名  
所属

池田佳隆 教授  
法学部 法学科



## 内容

### ●特徴

ヨーロッパ連合（EU）や北米自由貿易協定（NAFTA）などの経済統合の動きの中で、国家の役割が低下していると言われている。国家は歴史的な役割を終えたとも言える中、逆に域内においては国家の数が増えている。これは一体どうしてなのか、その原因を明らかにする研究を実施しており、今後アジアでも経済統合が起こった場合の国家の仕組みを理解できると考えている。

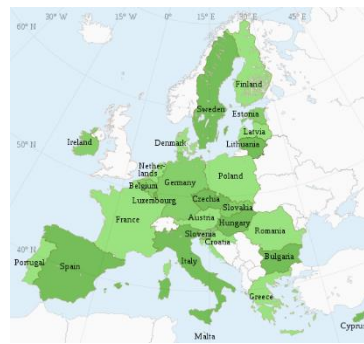
### ●研究内容

EUの域内において、加盟各国の中で独立を志向する分離主義の動きが目立つようになっている。例えば、スペインのバスクとカタロニアは有名な例であるが、イギリスのスコットランドでも地域ナショナリズムが高まりつつあり、ヨーロッパの中心とも言えるベルギー内部でも分裂への動きが見られる。これらは、大国の中で埋まっているよりも、分離独立して自らの国家としての存在を示し、利益を享受しようとの考えに基づいたものである。例えば、EUの議長国は各国の持ち回りであり、国の大小に関係

しないため、独立を果たせば小国でもEUを代表することができるなどのメリットがある。さらに、EUという枠組みの保護の下に、分離独立後も経済的にも政治的にも孤立しないとの期待があるものと思われる。つまり、「統合と分離が同時進行」する形となって現れ、ヨーロッパ統合の進展により、分離独立のハードルが逆に低下したと考えられる。

またEU域外のモンテネグロの分離独立では、EUに加盟するためには、セルビアと離れたほうが加盟しやすいという思惑から、投票による分離独立が実現した例が見られる。

これらの統合と分離の同時進行の状態を検証していくことで、その本質に迫ることができ、統合による国家の変容とは何かが見えてくる。



2021年現在のEU加盟国：27カ国

ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、ドイツ、フランス、イタリア、フランス、アイルランド、デンマーク、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オーストリア、フィンランド、スウェーデン、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキア、エストニア、ラトビア、リトアニア、キプロス、マルタ、ルーマニア、ブルガリア、

キーワード

経済統合、分離主義、国家主権

連携方法

■ 講演    □ 研修    □ 研究相談    □ 学術調査    □ コメントート    ■ 共同研究